

令和2年度 学校自己評価表 海田町立海田南小学校

学校教育目標 「考え 実践する 海田南っ子」

評価計画			評価基準				自己評価(中間)				自己評価(最終)		
中期経営目標	評価項目	評価指標	A 目標達成	B ほぼ達成	C もう少し	D できていない	中間値	評価	結果と課題の分析	最終値	評価	結果と課題の分析	
考えぬく頭	自ら考え、「見方・考え方」を豊かにし、深い学びをする児童	児童が深い学びをするための発問を工夫した授業を行う。	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満	75.1%	C	教師評価は95%で児童の評価とは開きがあり、話し合い活動が設定しにくい状況下で、教師が求めていることが児童に十分に伝わっていない。意見交換を会話によるコミュニケーションに限定して考えている、といったことが考えられる。多様な学習方法の開発・活用、評価指標の共有を図っていく。	77.4%	C	教師評価100%。授業では接触の少ない方法も取り入れたが、児童評価との開きは依然大。学び方に係る積極的な形成的評価、評価指標の共有等を図る。	
		家庭・地域と連携した体験活動を生かした道徳科授業の推進を図る。	13項目以上	12項目	11項目	10項目未満	7	D	調査を6月に行い、肯定的評価85%以上達成は7項目。学校再開直後で取組不十分。	8	C	11項目伸びたものの目標未達成。自己肯定感に係る2項目は再取組。肯定的評価40名余り増。実感していないと回答した児童には個別の取組を継続中。	
		繰り返し学習を行い、脳の活性化と基礎・基本の学力の定着を図る。	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満	89%	A	授業中の適用題に取り組む時間、ドリル(ぐんぐん)タイムの時間の確保が結果につながったと分析。引き続き取り組む。	92%	A	継続した取組の効果を実感。目標未達成の児童は学び方をより丁寧に把握し、補習や九九応援団(担任外職員との暗唱練習)等でフォロー。	
		児童が積極的に読書活動を進める図書館教育、家庭読書の推進を図る。	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満	14%	D	平均45冊。読書名人(60冊以上)が22人。	40.9%	D	2月末の60冊越え児童は261人(40.9%)。児童は順調に図書を借りて読んだが年度初めの休業が影響し、目標未達成。	
意気高い心	自らを律しつつ、友達と協力し、人や物や場を大切にしている児童	あいさつ・無言清掃を中心とした生活目標を自分から進んでする児童を育てる。	85%以上	80%以上	70%以上	70%未満	保89% 地83.4% 教52% 教58%	C	挨拶について学校では立ち止まっていた挨拶を指導しており、引き続き取り組んでいく。 清掃は授業時間確保の関係で週に3日。異学年による縦割り清掃を実施できておらず、特に低学年の無言清掃が定着不十分。	保85.5% 地86.7% 教81% 教86%	B	児童会取組と教師の率先垂範により挨拶する児童増えた。無言清掃、感染症対策を含め、今後は児童の発案を生かすなどより自治的な取組を行っていきたい。	
		特別支援教育の取組を生かしたユニバーサルデザインの授業づくりを推進する。	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	86.9%	B	ユニバーサルデザインの学級経営チェックリストにおいて重点項目3つの平均達成率	100%	A	ユニバーサルデザインの授業づくりのうち参加レベルは達成と判断。今後は多面的な児童理解を通して、より居心地のよい学級づくり・分かりやすい授業づくりを進める。	
たくましい体	自ら体力の目標をもって向上させ、健康な生活を創る児童 人や自分の命を大切に、安全な生活を自分で創る児童	体力テストの結果(R元年度)を受け、重点項目2種目における体力の向上を図る。	75%以上	65%以上	55%以上	55%未満			※令和元年度の全国平均は未発表。R1県平均、H30全国平均を超えている学年は①長座体前屈男子は2学年、②女子は0学年、③立ち幅跳び男子は2学年、④女子は2学年。	①72% ②61% ③62% ④59%	C	室内でできる柔軟運動の機会増が①②に影響。③④は外遊びの機会減の影響と分析。多様な運動の機会の確保が今後の課題。	
		安全教育(避難訓練、防犯教室、スマホ教室等)及び職員研修を学期毎に行った回数	3回以上	2回以上	1回以上	0回	4	A	避難訓練(火災・垂直避難)、防犯教室及び緊急時児童引き渡しの職員研修を行い、その後の学校生活や避難訓練に生かすことができた。また、県の教材を活用した授業により児童の自覚を高めることができた。	7	A	訓練中の児童の行動は良好で警察からも高い評価を受けた。取組の繰り返しにより、非常時に適切な行動ができる児童を引き続き育成したい。	
みなぎる・みんなの力で	組織的に、かつ協働することで、活力ある教育活動を展開し、保護者や地域に信頼される学校	丁寧な家庭連携、地域行事への積極的な参加を通して、地域・保護者・児童に信頼される教職員集団をめざす。	90%以上	85%以上	85%未満	70%以下	95.9%	A	1学期は家庭訪問・授業参観・学級懇談会・運動会未実施。PTA新聞発行なし。地域・保護者への情報発信は通信・HP等に限られ、児童の様子、新聞等の報道を通して学校状況を理解していただいた。9月から学区内を3つに分けた地域別参観を実施。	95.9%	A	2学期は授業参観、マラソン大会、オンライン作品展実施。3学期は地域と連携した授業実施。また登下校見守りボランティアへの通信配付を職員から高学年児童に変更。	
		タイムマネジメントで仕事をを行うことを通じて、退校時刻を守り、見通しをもって仕事ができる教職員集団をめざす。	95%以上	90%以上	90%未満	80%以下	90.7%	B	毎月4回以上、退校時刻を守った教職員の割合が6月87.6%、7月92.3%、8月92.2%。	97.8%	A	定時一斉退校、業務改善等により仕事と生活の調和を意識する職員増。引き続き教育の質を維持・向上しつつ、業務改善を進めていきたい。	